

音声研究と音声教育(2)

小松 雅彦／バロン・ロペス, アルトゥーロ

幅広く音声とその教育についての研究を実施し学生との共同研究も推進することを目的とした本研究グループも2年目を迎えた。音声研究においては理工系の研究室のように教員と学生がともに研究を進める体制が望ましいが、本学の外国語学部ではそのような体制がなくなかなか難しい点があるが、可能な範囲での研究活動を行っていきたい。

本年度は、研究グループの構成員がそれぞれの

学生を指導している。萌芽的研究として楽譜を用いたリズムの分析を始めたり、日本人学生のスペイン語イントネーションの習得についての研究を行っている。また、7～8月のオープンキャンパスでは、英語英文学科企画の中の1ブースで、「イギリス英語 vs. アメリカ英語」(クイズ)やモスキート音(体験)を行った。研究グループとしてまとまった活動は実施できなかったが、今後の課題としたい。

